

助け出すより連れ出す

県、早めの避難促すポスター



JR広島駅の地下通路にポスターを張る駅員

れ出す』ことをまず、考え 豪雨で多くの高齢者が逃げ

遅れた教訓を踏まえて、県は18日、高齢者への声掛けで早めの避難を促すキャッチフレーズを載せたポスターの掲示を始めた。6月の土砂災害防止月間に合わせた初の試みという。

ポスターはB1判、A2判、B3判の3種類ある。キャッチフレーズは、雨が降る中、つえをついた高齢者と避難させようとする人を表現したイラストに添える。「危ないから避難しよう。あなたのこのひと言で救える命があります」などと説くメッセージも示す。

広島市南区のJR広島駅では、駅員が構内に4枚を張った。県が予定する掲示場所は、JR駅や病院など

県内約3千カ所。広島電鉄や路線バスの車内のほか、ガソリンスタンドなどでも掲げてもらう。

県が県立広島大（広島市南区）と連携し、県内の約8千人を対象に実施した意識調査によると、西日本豪雨では年齢が高くなるほど避難の必要性を感じる割合が低くなった。県土砂法指定推進担当は「高齢者は避難に時間がかかる一方で、『まだ大丈夫』と避難を先延ばしにする傾向がある。災害が起こる前に避難する機運を高めたい」としている。

(中川雅晴)